

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

来年の花き栽培への準備

1 草花

お盆咲きのキク

お盆咲きのキクは3月下旬の寒い時期に挿し芽をします。そのため、それまでにしっかりと親株の芽を育てておく必要があります。

露地で育てる場合は、挿し芽時期になっても芽が十分に伸びないため、簡単な保温をしてやる必要があります。早くからハウスなどで母株を育成する場合は、気温が低い時期でも、白さび病やアブラムシが多く発生することがあります。白さび病が発生した葉は摘み取って焼却しましょう。そのままにしておくと、薬剤を散布してもなかなか抑えることができなくなります。

早春播きの草花

①アスター

8月頃に切り花する作型では、3月に播種(種まき)します。この時期の育苗は温度が低いいため、ハウスまたはトンネルが必要です。

アスターは立ち枯れ病に大変弱いので、病原菌がいなきれいな

播種用土を用意することが大切です。過去に野菜や花を栽培したところがある畑の土を用いると、病気が多発するので、田土や山土または購入した育苗用の土を使用しましょう。

②マリーゴールド

花壇用の苗物として販売するには、この花が売りやすく栽培も比較的簡単です。

マリーゴールドは2月に播種し、4〜5月に販売します。ただし、寒さに弱いので、播種床を発芽適温である15〜20度に保つ必要があります。保温の方法は、ハウスまたはトンネル内で、電熱温床線を播種床の下に敷いて、温度を確保するのが一般的です。

2 枝物花木

直売施設では、切り枝用のサクラやモモが早春の人気商品で、有望な花きの一つです。

春の植え付けは、3月が適期になるため、この植え付けに合わせて、苗の手配と圃場の準備を早めに行っておきましょう。

なお、植え付けをする圃場は、よく肥えて排水も良く、日当たりの良い畑を選ぶことが大切です。

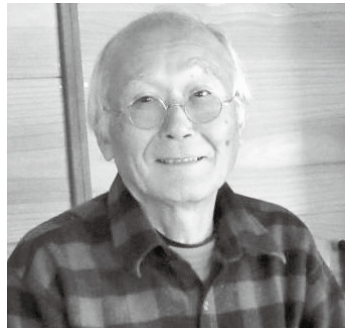
問い合わせ

農業振興課 農業振興係

☎0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新たな魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



高野町で
カフェ「風の里」を営む
熊川 和幸さん

高野町の自然に心惹かれ、移住した熊川さんに、カフェをオープンしたきっかけなどを聞きました。

雪景色に心をほれ

今から約20年前、比和町からトンネルを抜けて、目の前に広がった高野町の雪景色に心を奪われ、広島市から移住を決意しました。

当時、町役場の職員にお世話になり、紹介されたのが今の我が家です。昔話に出てくるような、築百年以上のとても素朴な家でした。家主さんから好きにリフォームしていいと言われたことと、囲炉裏があることで即決し、購入しました。

リフォームは、自分でやってみようと思いましたが、何もかも初めてののにわか大工でした。何とか改修することができました。それに気を良くして、その後ログハウスを建てたくなり、柱を立て

るときなどは、地元の人に手伝ってもらいましたが、出来るところは、ほとんど自分で作業し、ようやく7年前にログハウスが完成しました。

地域の集いの場所

最初は、自宅として建てる予定でしたが、建設中に地域の人からカフェにすることを強く勧められ、設計変更し、ログハウスをカフェ「風の里」としてオープンしました。

当時は、カフェにすることに大反対していた妻も、今ではおいしいケーキを焼いてくれます。

カフェの営業は毎月土、日、月曜日の3日間です。静かな佇まいと、カフェから見える風景、コーヒーとケーキだけのたつたそれだけの小さなお店ですが、地域の人もよく来てくれて、集いの場になったことが何よりうれしいです。

都会の喧騒を離れ、気が付けば70歳を過ぎました。1杯のコーヒーとカフェのテラスから広がる毛無山や、高野町の風景に癒やされ、ここに住める喜びを感じながら、明日への夢を見続けたいと思います。

問い合わせ

自治定住課定住推進係

☎0824・73・1257